

生徒会重点活動

1. あいさつ

(1) 目標

- ① 誰に対しても、元気なあいさつ・会釈・返事ができるようにしよう。
- ② 学校全体の雰囲気が明るくなるようなあいさつが飛び交う学校にしよう。
- ③ 地域の方々にも積極的にあいさつができるようになろう。

(2) 活動内容

① あいさつ運動

<ねらい>

- ・人と人の心を結ぶ明るいあいさつができる高中生を目指すため。

<活動方法>

- ・毎週月曜日に執行部と生活委員で、7：50から昇降口などに立ってあいさつをする。
- ・「あいさつの合言葉」や節ごとの「あいさつ目標」を掲示して、あいさつへの意識を高める。

あいさつの合言葉

「あいてのめをみて・いつでも・さわやかに・つねにじぶんから」あいさつをしよう！

あいさつ目標

- 1 節：明るいあいさつと会釈をしよう
- 2 節：常に自分からあいさつをしよう
- 3 節：相手の目を見てあいさつをしよう
- 4 節：誰にでもさわやかなあいさつと会釈をしよう
- 5 節：あいさつマスターになろう

② タイアップあいさつ運動

<ねらい>

- ・各種行事で中心となって活動する生徒や市中総体・新人大会などに出場する選手が元気に挨拶をすることで、学校全体で盛り上げていくため。

<活動方法>

- ・生活委員と連携して行う。
- ・朝7：50から昇降口前（雨天時は中）で、あいさつを行う。
- ・あいさつ運動に参加するメンバー

学年行事後：各クラスの班、市中総体・新人大会：部活動、合唱コンクール：実行委員、運動会：軍幹部・総務

2. 絆

(1) 目標

- ① 仲間の良いところや相手への感謝の気持ちなどを積極的に伝え合い、一人ひとりの想いを大切にできる高中生になろう。
- ② 互いに支え合い、協力し合うことで、絆を深めよう。
- ③ 悪口・陰口をなくし、生徒一人一人が安心して楽しく学校生活を送ることができるようにしよう。

(2) 活動内容

① 思いやり宣言文

<ねらい>

- ・相手の気持ちを考えて、その場にあった行動、発言のできる高中生を目指すため。
- ・悪口、陰口がなくなり、誰もが安心して楽しく生活できる学校にするため。

<活動方法>

- ・各学年で「思いやり宣言文」をつくり、学年ごと学年朝会で発表する。また、「思いやり宣言文」を教室や全校生が目にするところに掲示し、いつでも意識して行動できるようにする。
- ・学期に1回、振り返る機会を設定する。振り返りの内容をまとめて、生徒朝会で報告し、思いやりの意識を高める。

② ハートの山

<ねらい>

- ・仲間の良いところや相手への感謝の気持ちなどを積極的に伝え合い、思いやりの心があふれる学校にするため。

<活動方法>

- ・行事などが終わった節目（5月：学年行事、10月：合唱コンクール・運動会、2月：1年間を振り返って）に、ハート型の用紙に、仲間の良いところや相手への感謝の気持ちを書いて、全校生が目にするところに掲示する。
- ・1年間継続して掲示し、ハートがたくさんあふれた山になるようにする。

③ Unity Time

<ねらい>

- ・仲間のよいところなどをもっと知り、お互いに尊重し合えるようにするため。

<活動方法>

- ・水曜日の朝活動の時間（全校朝会と生徒朝会のない日）に、Unity Timeを設定する。
- ・学級の班を基本として、決められた話題について、5～10分程度、様々なお題の活動をする。
- ・学期に1回は、全校生での活動を取り入れる。
- ・当日の活動の様子を、評議員から記録に記入してもらう。
→翌日の昼の放送で、Unity Timeの様子を伝える。

3. ボランティア

(1) 目標

- ① 積極的にボランティア活動に参加する高中生になろう。
- ② ボランティア活動を通して、自分にできることを進んで実行できる高中生になろう。
- ③ 地域との絆を大切にしよう。

(2) 活動内容

① アルミ缶回収

<ねらい>

- ・アルミ缶を回収し、リサイクル業者に買い取ってもらい、その収益でリハビリセンターに必要なものを贈るため。

<活動方法>

- ・昇降口にアルミ缶回収BOXを設置し、常時もってこることができるようにする。
- ・毎月第1火・水・木の朝を重点回収日とし、昇降口周辺の一か所で回収を行う。回収量は昼の放送などで報告する。
- ・授業参観や壮行式などで保護者が来校するときにも、協力を呼び掛ける。また、アルミ缶だけでなく、アルミ製品の回収も呼びかける。

② 地域貢献

<ねらい>

- ・地域の美化活動など自分たちにできることを行い、貢献していくため。

<活動方法>

- ・高瀬と楯山のコミュニティセンターと連携して、どのような活動ができるか確認する。
- ・ボランティアスタッフを募集し、学期に1回（6月：市中総体後、10月：運動会后）程度、定休日もしくは、学級活動優先日を利用し、放課後に活動を行う。

※その他、様々な福祉活動や、災害時支援に役立てられる各種募金活動にも積極的に参加していく。

4. メディア

(1) 目標

- ① メディア（パソコン、スマートフォン、タブレット、ゲーム機などの電子機器）のよりよい使い方ができるようにしよう。
- ② 悪口等の書き込みなどで傷つく人がいなくなるようにしよう。また、外部からの危険を防ごう。
- ③ 十分な睡眠時間を確保して、毎日元気に登校し、活動に集中して取り組もう。

(2) 活動内容

① メディア使用ルール

<ねらい>

- ・メディアのよりよい使い方について考え、思いやりの気持ちを持って使用できるようにするため。

<活動方法>

- ・「高楯中のメディア使用ルール」を確認し、守れるように呼びかけをしていく。
- ・生徒朝会や定期テスト時のメディアコントロールなど、振り返る機会を設定する。

【高楯中メディア使用ルール】

- ・勉強中に LINE やゲームをしない。
- ・メディア使用時間は2時間以内。
- ・休日は3.5時間以内。
- ・就寝時間1時間前は使用しない。(テスト前は9時以降使用しない)
- ・SNSを使用するときは、相手が嫌がるような言葉や投稿はせず、思いやりの気持ちをもって使用する。
- ・各家庭でもメディア使用時の約束を設定していく。

5. その他の活動

(1) 青少年赤十字 (JRC)

青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために貢献し、世界の人びとの友好親善の精神を育成することを目的として、様々な学校教育の中で展開しています。青少年赤十字では、先に述べた目的を達成するために、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標を掲げています。また、主体性を育むために「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げています。

<令和5年度の高楯中学校での実践>

赤い羽根共同募金、能登半島地震義援金、3.11いのちの灯、アルミ缶回収活動

(2) SDGs

SDGsとは、持続可能な世界を実現するために、2030年までに達成すべき国際社会全体の目標です。「地球上の誰一人として取り残さない」を理念に、行動変革につなげるため一人ひとりが持続可能な社会づくりに必要な知識とスキルを得ることが掲げられています。

※SDGsはSustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称です。

